

生神女庇護祭 10月1日／14日

聖体礼儀

トロパリ 第4調。(ニコライのトロパリと同じメロディで)

神の母よ、／我等信者は今日爾の降臨に蔭はれて欣ばしく祭り、／爾の至浄なる像を仰ぎて／熱切に云ふ、／爾の尊き庇護にて／我等を覆ひ、／我等を諸の悪より脱れしめて、／爾の子ハリストス我等の神に／我が霊を救はんことを祈り給へ。//

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

コンダク 第3調

今日童貞女は聖堂に立ちて、／聖人の會と偕に見えずして／我等の為に神に祈り給ふ。諸天使は司祭長等と偕に伏拝し、／使徒は預言者と偕に慶賀す、生神女が我等の為に／永遠の神に祈り給へばなり。

コンダク 3調



今日 生神女は 聖堂に 立ちて 聖人の会と共に 見えずして

我等のために 神に 祈り たま う 諸 天使は司祭長等と

ともに ふくはいし 使徒は預言者とともに 慶 賀す

生神女が 我等のために 永遠の 神に いの り た ま えばなり

提綱、生神女の歌、第三調。

我が^わ霊^{たましい}は主^{しゅ}を崇^{あが}め、我が^わ神^{しん}は神^{かみ}我が救^{きゅう}主^{しゅ}を悦^{よろこ}べり。句、蓋^{けだ}其^{その}婢^ひの卑^{いや}しきを顧^{かえり}みたり、今より後^{いま}萬^{のち}世^{ばん}我^{われ}を福^{さいわい}なりと謂^いはん。



ポロキメン

我が^わ霊^{たましい}は 主^{しゅ}を あ が め 我が^わ神^{しん}は 我が^わかみ

救^{きゅう}主^{しゅ}を よろこ べり

句、蓋其婢の卑しきを顧みたり、今より後萬世我を福なりと謂はん。

使徒の誦讀はエウレイ書三百二十端。「兄弟よ、第一の約には奉事の例と地に属する聖所とありき」。

使徒の誦讀はフィリッピ書二百四十端。

兄弟よ、爾等はハリストスイイススの意を以て意とすべし。彼は神の像にして、神と匹しくなることを僭ふとせざりき、然れども己を虚しくして、僕の貌を受け、人と同じき者と為りて、外形に於て人の如くなり、己を卑くして、死に至るまで順ひ、且十字架の死に至れり。故に神も彼を

無上に高くして、彼に凡の名に超ゆる名を賜へり、凡そ天に在り、地に在り、及び地の下に在る者の膝は、イイススの名の前に屈み、且凡の舌は、イイススハリストスが主たるを承け認めて、光栄を神父に帰せん為なり。

「アルリイヤ」、第八調、女よ、之を聴き、之を觀、爾の耳を傾けよ。句、民中の富める者は爾の顔を拝まん。



福音經の誦讀はルカ五十四端。「彼の時イイスス一の村に入りしに」。

福音經の誦讀はルカ五十四端。

彼の時イイスス一の村に入りしに、或婦マルファと名づくる者、彼を其家に迎へたり。其姉妹にマリヤと名づくる者あり、イイススの足下に坐して、其言を聴けり。マルファは供事の多きに因りて、心を煩はし、就きて曰へり、主よ、我が姉妹我一人を遣して供事せしむるを爾意と為さざるか、之に命じて、我を助けしめよ。イイスス彼に答へて曰へり、マルファよ、マルファよ、爾は多くの事を慮りて心を勞せり、然れども需むる所は一のみ。マリヤは善き分を択びたり、是は彼より奪ふ可からず。此を言ふ時、一の婦民の中より聲を揚げて、彼に謂へり、爾を孕みし腹と爾が哺ひし乳とは福なり。彼は曰へり、然り、神の言を聴きて之を守る者は福なり。

領聖詞、我救の爵を受けて主の名をよばん。「アルリイヤ」。三次。

領聖詞 115聖詠 4

Sergey Glagorev

